



レムナントの働き人、レムナントは、聞くメッセージに頼るのではなく、記録された聖書のみことばを通してメッセージを確認しましょう。テキストの基準は「聖書」です。そして、柳先生のメッセージは、必ず、直接、聞きましょう。そして、その学院福音化的メッセージを深く黙想したあとに、フォーラムをして、分かち合いましょう。メッセージの中にある戦略的な内容は、教会の牧師先生や教会学校の先生などの導きで、教会ごとに適用しましょう。この子ども伝道学校を通して分かち合うみことばは、参考にしてください。少しでもみなさんの助けになるなら、それで十分です。

今月のレムナントデイのメッセージの序論で、「三つの絵を描きましょう」というみことばがありました。今日は、その三つの絵「預言、幻、夢」に関するみことばを分かち合います。

預言、幻、夢

默示録1:3

この預言のことばを朗読する者と、それを聞いて、そこに書かれていることを心に留める人々は幸いである。時が近づいているからである。

使徒2:17に記録されていることばは、ペテロがヨエル2:28のみことばを引用したものです。そのヨエル書の主題は、主の日についての預言です。ヨエル書では、神様の戒めと回復を宣布しています。主の日というのは、イエス様の再臨のとき、つまり、世の終わりのときを意味しているのですが、戒めと回復を分ける重要な事件はイエス・キリストの十字架の事件です。イエス・キリストの十字架の事件以降が、主の日です。その重要な手がかりとなる聖書が、ヨエル2:28のみことばです。

ヨエル2:28

その後、わたしは、わたしの靈をすべての人に注ぐ。あなたがたの息子や娘は預言し、年寄りは夢を見、若い男は幻を見る。

ここで書いてある「その後」ということばに注目しましょう。「その後」神の靈が人々の上に注がれるという約束です。その約束は、いつ成し遂げられるのでしょうか。五旬節の日、マルコの屋上の間で起こったのです。このマルコの屋上の間に聖靈が臨む働きが、イエス・キリストの十字架の死と復活の後に起こった事件です。だからこそ、「その後」というみことばは、イエス様の十字架の事件を意味すると見ることができます。使徒2章では、ペテロがこのヨエルのみことばを引用して語りましたが、そのとき、「その後」というみことばを「終わりの日に」と解釈しています。

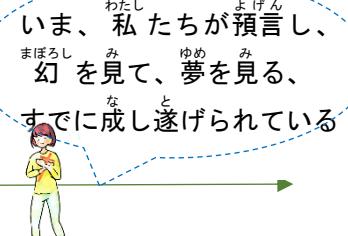
使徒2:17

『神は言われる。終わりの日に、わたしの靈をすべての人に注ぐ。すると、あなたがたの息子や娘は預言し、青年は幻を見、老人は夢を見る。

れきし歴史



(イエス様の十字架と復活)



いま、私たちは、イエス様の十字架の死と復活以降の時代を生きてています。すなわち、いまが、「その後」であり、「主の日」「終わりの日」を生きているということです。

ここで重要なことは、イエス様の十字架の事件の後、終わりの日を生きている私たちが預言をして、幻を見て、夢を見るということが書いてあるということです。それはいつ起こるのでしょうか。いまも起こっています。

イエス様の十字架の事件を通して、私たちにあきらかに現れた神様のみこころは何でしょうか。イエス様が旧約に約束された女の子孫であり、メシヤであること。イエス様が罪とのろい、死と地獄、サタンの問題から私たちを解放してくださり、神様に出会う唯一の道となられたキリストであるということです。いま私たちは、それを信じ、告白しています。それゆえ、この「預言、幻、夢」は、私たちに「すでに」成し遂げられているのです。

預言というのは、神様のみことばである「聖書」です。

黙示1:3

この預言のことばを朗読する者と、…

聖書は、イエス・キリストに関するみことばです。

ヨハネ 5:39

…その聖書が、わたし（イエス・キリスト）について証言しているのです。

ことばが人となってこの世に来られました。それがイエス様です。その方がマタイ 4:17

「悔い改めなさい。天の御国が近づいたから。」

と言いながら、公生涯を始められました。

その後、十字架で死んで復活されたあと、40日間、神の国のこと語ってから天に上られました。



使徒1:3

…神の国のこと語り

まほろし ゆめ
幻・夢
さま とお わたし あた
イエス様を通して私たちに与えられ
た神の国を信仰の目で見ること

すなわち、イエス・キリストが天の御国としてこの世に来られ、天の御国だけを語って、上られたということです。

預言は、まさに「イエス・キリストであること」を語ることであり、
幻や夢を見るのは、「イエス様を通して私たちに与えられた神の国を信仰の目で見ること」です。
聖書から離れた、他の預言、幻、夢はありません。

それゆえ、聖書で言われる預言は、未来に対することを語るのではなく、
記録された聖書を通して過去から語られてきた神様のみこころ、
すなわち、イエス・キリストを通しての救いの福音のみことばを正しく悟って、
現在、私たちが経験している救いの恵みを語ることで、
すでに完成しているけれど、未来に入る神の国を説明することです。



みなさんが、本当に知りたい未来に対する預言はどんなことでしょうか。
新しい人と新しい地で、ほんとうに私たちは永遠に生きることができるのか、そこではどのような生き方をして生きるのかが気になっている人はいるでしょうか。



もうすぐ新年です。世の人々が望んでいるような、来年の自分の人生はどのようになるのか、どんな祝福を受けるのか、私たちの家庭や産業には、どんな祝福があるのか、私たちの教会は来年に復興するのか、しないのか…ということを知りたいでしょう。

救われた私たちは、来年一年、または十年、二十年後の、この地での生活を心配する必要はありません。毎日の生活中で、イエスがキリストであることを告白し、私の中に臨まれた三位一体の神様と御座の祝福、神の国を祈りの中で味わうことができるなら、それが預言を語って、幻を見て、夢を見ることです。

本当に預言を話したいなら、聖書を一生懸命に読みましょう。ただ読むだけではなく、どの部分を通して、キリストと神の国を黙想することができるようになります。そして、他の人々に聖書を通して、正確な真理のみことば、福音のみことばを教えることができるようになります。



預言と幻と夢というのは、結局、神様が聞かせてくださり、見せてくださるのでなければ、すべてが偽りです。人はみな、自分が聞きたいこと、見たいこと、なりたいことを夢見ます。しかし、神様が計画され、語っておられる未来は、私たちが考えて願うこととは異なる場合があります。来年2023年も、私たちが望むような方向には、人生が流れないかもしれません。それでも私たちは、その中で従順の人生を生き、神様のみこころに従うのです。その中に、まことの平安と喜びと自由があります。



I ペテロ 3:15

むしろ、心の中でキリストを主としてあがめなさい。そして、あなたがたのうちにある希望について説明を求める人には、だれにでもいつでも弁明できる用意をしていなさい。

福音のプロになりましょう。ただイエス・キリストだけを語ることができる、預言を話すことができるようにすることを願います。